

化学療法プロトコール登録票

プロトコール名

PTX(q1w)(食道癌)

対象

進行または再発食道癌

投与順	抗癌剤名	投与量	手技	投与時間・速度	投与日(d1,d8等)
1	パクリタキセル	100mg/m ²	点滴静注	1時間	day1,8,15,22,29,36

1コース期間	56日間
総コース数	中止基準に該当若しくは病変の増悪を認めるまで
コース間での休薬の規定	下記に記載
投与量の増量規定	なし
減量規定・中止基準	第1段階減量は80mg/m ² 第2段階減量は60mg/m ² 減量基準は ①好中球数 < 500/mm ³ ②白血球数 < 1000/mm ³ ③Grade4以上の発熱性好中球減少症 ④血小板数 < 20000/mm ³ ⑤Grade3以上の非血液毒性 ⑥Grade2以上の末梢神経障害、筋肉痛、関節痛
コースによる変化	1回目投与時にアレルギー症状が認められなかった場合は、2回目以降はデキサメタゾン4mgに減量することがある。
投与間隔の短縮規定	なし
2コース目以降の投与開始基準	PS 0-1 白血球数 ≥ 3000/μL(同一クール内では ≥ 2000) 好中球数 ≥ 1500/μL(同一クール内では ≥ 1000) 血小板数 ≥ 100000/μL ヘモグロビン ≥ 9 g/dL ASTおよびALT ≤ 施設基準 × 2.5(肝転移症例では ≤ × 5) 総ビリルビン ≤ 1.5mg/dL 血清クレアチニン ≤ 1.5mg/dL
注意すべき副作用	アナフィラキシー様症状、白血球減少症、好中球減少症、便秘、食思不振、倦怠感、肺炎、末梢神経障害など

PTX(q1w)(食道癌)

1コース期間 : 56日

所要時間 : 2時間

Rp	薬剤名	標準投与量	投与方法	投与速度	投与時間	d1	d8	d15	d22	d29	d36
1	カイトリルバッグ 100mL デカドロン 6.6mg 1V ファモチジン 20mg 1A ★レスタミン錠50mg内服、 又はポララミン注(5)1Aを追加		div	400mL/hr	15分	○	○	○	○	○	○
2	生食 100mL		div	200mL/hr	30分	○	○	○	○	○	○
3	生食 250mL パクリタキセル 【 】mg	100 mg/m ²	div	250mL/hr	1時間	○	○	○	○	○	○
4	生食 50mL		div		15分	○	○	○	○	○	○

コメント

パクリタキセル投与30分前にレスタミン錠(10) 5錠内服
内服困難な場合は、レスタミン内服をポララミン注(5) 1Aに変更。
デカドロンは、初回投与時に過敏症状がみられなかった場合、2回目以降は半量(3.3mg)に減量可。
Day8以降は外来で投与可

Reference:

Ken Kato et al, A phase II study of paclitaxel by weekly 1-h infusion for advanced or recurrent esophageal cancer in patients who had previously received platinum-based chemotherapy Cancer Chemother Pharmacol (2011) 67:1265-1272